



# なんばパークス

【活動者】 南海電気鉄道株式会社 株式会社高島屋

## Review

なんばパークスは、地上から9階まで段丘上に連なる日本最大級の屋上庭園である。ここでは、大阪の郷土種をはじめ約500種、10万株以上の多種多様な植物が配植され、平成15年10月の開業以来、農薬を使用しないなど、総合的病害虫管理（IMP: Integrated Pest Management）によって良好に維持管理されてきている。28種の鳥類や152種の昆虫類が確認されており、都心部にあって豊富な生物相を生みだしている。ここでは、このような緑を良好に維持するばかりでなく「人、都市、自然がもっと一つになるために」をコンセプトに樹木や草花と店舗や広場が一体となって「おもてなしの場」を創出している。常駐の女性専属ガーデナーが単に維持管理作業をするばかりでなく日常的に緑を介して訪問者と積極的にコミュニケーションに取り組み、安心して自然と触れ合える環境を提供するとともに人々を緑への関心へと誘っている。また、ガイドツアーやプランツマーケットをはじめ、各種の植物に係るイベントが定期的に行われており、都心部では貴重な自然との触れ合いの機会を提供している。また、大阪市の緑化リーダーの育成や地域の小学校が校内で育てたホテルの幼生をガーデン内のせせらぎに放流するなど環境教育の場としての役割も担っている。

大阪府立大学研究推進機構 特認教授植物工場研究センター長 増田 昇

## Outline

パークスガーデンは地上から9階まで段丘状に連なる日本最大級の規模の屋上庭園である。緑地と通路、広場を含めた面積は約11,500㎡で、大阪の自然植生を再現した風土林をはじめとして、多種多様な植物が約500種・10万株以上配植されている。緑を良好に維持管理するだけでなく、おもてなしも重要と考え、当初より常駐の女性専属ガーデナーを配置している。

また、ガイドツアーやプランツマーケットなど、ガーデンでの各種イベントを定期的に行うことで賑わいを創出しているほか、大阪市の緑化リーダー育成や地域の小学校の環境教育の場としての役割も担っている。近年では観光地としてインバウンドのお客さまも多く訪れている。

開始時期：平成15年～  
所在地：大阪市浪速区難波中2-10-70





## 「新・里山」・「希望の壁」

【活動者】積水ハウス株式会社

### Review

平成5年、大阪の都心・梅田の一角に「新梅田シティ・梅田スカイビル」がオープンして、四半世紀以上になる。当開発を手掛け、継続して所有・管理に当たる企業が推進する環境・CSRの理念が、明確に示され追求されているのが、同エリアに整備された「新・里山」と「希望の壁」だ。

「新梅田シティ」にそびえる「梅田スカイビル」の足元に広がる8,000㎡の敷地に、日本の里山を手本にした在来樹種と低灌木や草花の雑木林をつくり、柵田や畑を設け、都心に働き暮らす人々の手による「新・里山」の生態系と景観を生み出している。その東側に、チョウの来訪を促す草花を配した、巨大な緑化モニュメント「希望の壁」が並ぶ。「新・里山」も「希望の壁」も、都心の環境のなかで生物多様性をいかに回復し、その重要性をいかにオフィスワーカーや地域住民や来場者と共有していくかに、関係者の力が結果されている点が最大の特長といっても過言ではない。同社の環境・CSR・広報・総務部門、ビル管理会社・緑地管理会社等による「新・里山／希望の壁活用委員会」の組織、有機・対症的減農薬利用を原則とし、敷地内で発生した枯葉等は堆肥化させる循環型の管理、オフィスワーカーによる農作業ボランティアや、周辺の幼稚園・小学校やシニアと連携した継続的な環境学習プログラムの実施、園芸高校の生徒や専門家とともに継続している生態系調査など、持続的な協働管理と情報共有が徹底され、都心における人と生き物の共生と景観やライフスタイルの創造に、新たな展望を開いている点は高く評価できる。

大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所 特任研究員 弘本 由香里

### Outline

管理については、社外業者任せでなく積水ハウス株式会社の環境・CSR部門やビル管理会社、緑地管理会社等からなる「新・里山／希望の壁活用委員会」という組織を設け、月に一度の定例会を実施し、密な情報共有を行っている。

活動(管理)計画から、害虫発生への薬剤利用レベル、生き物調査の進捗状況共有などまで年間計画を立てて、きめ細かい維持管理を実施している。

具体的活動としては、小学校授業の稲作や幼稚園児の野菜育成による食育学習から、シニア向け野外生涯学習に加え、他社テナントを巻き込んだ農業ボランティア活動などを実施。生態系保全についても、府立園芸高校の生徒や専門家による敷地の生態系調査を継続的に実施している。

開始時期：平成18年～  
所在地：大阪市北区大淀中1丁目1-88





# 大泉緑地「ふれあいの庭」

〔活動者〕 大泉緑地指定管理グループ

### Review

まだユニバーサルデザインという言葉が使われ始めたばかりの平成9年、大泉緑地の一角に、高齢者も障がい者も含むすべての人々が五感で楽しむヒーリングガーデン「ふれあいの庭」が生まれた。丁寧なヒアリング結果に基づき巧みなデザインが細部に至るまで施され、その思想と技術は高く評価され話題をよんだ。この比類ない庭を着実に継承しつつ、その魅力を広く共有していくために専門家集団が日々重ねているマネジメントの創意工夫が、今回の受賞対象である。野外シネマやガーデンコンサート等のイベント開催、街歩きアプリを活用した多言語音声ガイドの導入等、来園者層の開拓にも繋がる新たな取り組みを積極的に行っているが、何より高く評価されるのは、その一方で緻密で丁寧な植栽管理を日々積み重ね、豊かな花と緑の風景を着実に保ち続けている点である。個々の植物の形態や生理生態的特性、さらに様々な来園者の楽しみ方も熟慮したきめ細やかな植栽管理は、この庭に当初から付随している人と自然に対する優しいまなざしに通じ、固有の魅力を揺ぎないものとしていく。その延長線上に、花の姿や香り、触感をより身近に感じることのできる可動式の展示植物の充実にも取り組み始めており、今後その魅力がより強化され、醸成していくことが大いに期待される。

奈良県立大学地域創造学部地域創造学科 教授 井原 緑

### Outline

大泉緑地「ふれあいの庭」は、「みんなが花、緑、水、風、そして互いの心にふれあう場所」「見るだけではなく、音や香りや感触も楽しむ場所」をコンセプトに、ユニバーサルデザインを取り入れ平成9年に整備されたセンサリーガーデンである。四季折々の花や緑が楽しめるガーデンとして、またボランティアグループによるサポートを通じて高齢者や障がい者の方々にも利用されている。

「ふれあいの庭」の利活用の幅をさらに広げ、日常／非日常の様々な利用シーンに対応できるようにするために【日々折々の花風景づくり】【互換で楽しむ“こと”づくり】【ユニバーサルな情報発信】のハード・ソフトの両面から総合的に取り組んでいる。

開始時期：平成30年～  
所在地：堺市北区金岡町128



### 大阪府立園芸高等学校ビオトープ部

[活動者] 大阪府立園芸高等学校ビオトープ部

#### Review

府立園芸高校ビオトープ部は、平成19年度末まで大阪府立城山高等学校によって取り組まれてきたバタフライガーデン活動を継承し、蝶の幼虫の食餌植物と成虫の吸蜜植物の育成栽培と無償配布を長らく行ってきた。ほとんどの植物が市販されていないため、近隣の野山で種子を最低限採取し、校内で育成栽培しているが、野生種のため発芽から成体まで多くの苦勞を重ねている。また、これまで梅田スカイビルの「新・里山」や大阪市立長居植物園などをはじめ、多くの公園や昆虫館などの生体園づくりに大きく寄与してきている。現地審査当日も3名の高校生から活動紹介を受けたが、その真摯で熱心な姿に審査員一同感銘を受けた。

大阪府立大学研究推進機構 特設教授植物工場研究センター長 増田 昇

#### Outline

府立園芸高校ビオトープ部は企業、公共団体、小中学校等と連携して各地にバタフライガーデンを造っている。バタフライガーデンには蝶の幼虫がたべる食餌植物と成虫が蜜を吸う吸蜜植物を植栽する。しかし、これらの植物はほとんど市販されていないのが現状である。そこで、ビオトープ部では近隣の野山でこれらの植物の種子を最低限採取し、学校に持ち帰り、苗を作っている。

これらの植物の種子は野生種のため、休眠性を持ち、発芽率が低く、しかも発芽期間が長い。それでも苦勞に苦勞を重ねてポット苗を作り、各地に無償で提供している。

活動は週5回、放課後であるが、要望があれば休日にバタフライガーデンづくりに協力したり、種子の採集やバタフライガーデンの昆虫調査にも訪れる。梅田スカイビルとの関係が最も深く、過去13年間で35,000ポット以上の苗を提供し、継続調査を行っている。

開始時期：平成6年～

所在地：池田市八王寺2-5-1



### エリアマネジメントで育てる 御堂筋コンテナガーデン

[活動者] 一般社団法人御堂筋まちづくりネットワーク

#### Review

エリアマネジメントとは地域環境向上のための自主的取組を指し、都心業務地区では企業がその主体となりますが、「よい環境があればよいが自分ごとでない」と各企業の都合が優先されがちです。その中で、御堂筋歩道に設置されたコンテナガーデンを沿道企業が自分ごととして日々管理し、沿道の魅力づくりに繋がることが高く評価できます。さらに取組継続のための専門家サポート等の組織としての実施、デザイン面における各所の日照条件や各社の管理可能水準にあわせて品種や組み合わせの工夫も高く評価できます。今後は、他の緑化事業との連携や、歩道部の舗装仕上げとのデザイン調和など街路空間のさらなる高質化への貢献を期待します。

大阪府立大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻 助教 松本 邦彦

#### Outline

一般社団法人御堂筋まちづくりネットワークは、大阪を代表するメインストリートである御堂筋の淀屋橋～博労町沿道エリアにおいて「上質なにぎわいと風格あるビジネス地区」を目指してエリアマネジメント活動を行っている。

御堂筋にある25体の彫刻横に大阪市が設置したコンテナガーデンを、御堂筋まちづくりネットワークが維持管理する官民連携の活動として、景観価値の向上と皆で持続可能なまちなみを育てることを目指し活動している。

開始時期：平成28年～

所在地：淀屋橋から本町までの御堂筋沿道



### プレーパークこうりがおか

[活動者] ひらかたプレーパーク実行委員会

#### Review

香里団地は入居開始から半世紀以上を経た郊外大規模住宅団地の先駆けです。開発以前の丘陵地が斜面緑地として残された一方で、利用されなくなった里山は、居住者の近くにありながらも使われ集う場となっていませんでした。受賞団体の取組は、この斜面緑地を子どものプレーパークとするために、市民自らが整備方針や活動内容を決定・実行してきたこと、またそれを通じて多様な人が集う場を育てていることが高く評価できます。今後は、例えば現在の子どもの成長して次世代を教える側に回るといった持続的な仕組みや、竹林の拡大防止や里山林としての更なる機能回復を両立させる活動など、都市近郊緑地の再生モデルとなることを期待します。

大阪府立大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻 助教 松本 邦彦

#### Outline

UR香里団地の斜面緑地は、URが周縁部の草刈り等の管理をするのみで竹の侵食等があり、団地建設後50年にわたり「みどり」として存在価値はあるものの、地域住民に利用されてこなかった。

URと枚方市は包括連携協定により斜面林をプレーパークとして利活用することを検討し、平成29年10月の試行開始から現在まで、子ども支援団体や里山団体、市民活動支援センター、学生、UR、市等が協力・連携により発展的に活動を継続しており、平成30年6月からはスタッフによる活動エリアの林内整備も始まっている。

開始時期：平成29年～

所在地：枚方市香里ヶ丘1丁目 桑ヶ谷の緑地